

プレロディニーク・
サブライム・ハーモニー・
インター・チェンジャブル

オルゴール館



1890年ごろ スイス ベイラード社製 W107センチ H120センチ D70センチ

序曲を奏でる「不思議の箱」

レコードもCDもなかった時代に、オルゴールはスイッチ一つで簡単に音楽の自動演奏が楽しめる、実に画期的な発明だった。

いかに収録時間を長くするか——それが、一九世紀後半に最盛期を迎えたシリンドラー・オルゴールの大きなテーマとなる。このプレロディニークは、一曲の収録時間が五分にも達する傑作機であり、シリンドラーを交換することで「ウイリアム・テル序曲」など、数曲を楽しむことができる。一八六二年のロンドン産業博に最初の一台が展示されたものの、生産台数は極めて少ない珍しい機種である。

また、この機種は、その構造上、二枚櫛歯（サブライム・ハーモニー）を採用しているが、それが演奏技術を高めることにもなっている。二枚の櫛歯はそれぞれ存在を主張し、連続音、トレモロなど、お互いが競い合うように演奏する。それでいて、均整の取れた心地よいハーモニーが繰り広げられるのだ。その音色の深さにはただただ驚かされるばかりであり、機械の演奏であることを忘れてしまうほどの興奮を覚えるオルゴールである。

オルゴール館

〒112 東京都文京区目白台3-25-14

☎03-3941-0008

*見学は電話で確認が必要。